

<基礎特訓> 「子どもの保健」 <障害> 確認シート

©2024sakurakosensei 転載・転売・流用禁止

<問題編>

当てはまる障害などの名称を（ ）に入れましょう。

()

先天性の代謝障害。メラニン欠乏症状などが特徴。早期発見・治療により、知的障害を予防することが可能。

()

先天性の甲状腺形成不全などの状態。身長発育の遅滞などが特徴。早期発見・治療により、知的障害を予防することが可能。

()

先天性の染色体異常。ほとんどの症例で、21番目の常染色体が正常にくらべ1本多い。特徴的な顔、発育不全、先天性心疾患などがみられる。

()

生後5か月ごろまでは正常発達だが、その後30か月ごろまでに急激に自閉症や知的障害が現れる。手の常同運動が特徴で、女兒に多い。

()

2歳ごろまでは正常発達だが、発症するとそれまでの機能を失い、自閉症や重度の知的障害が現れる。

()

乳幼児期に虐待やネグレクトなどで、養育者との間に安定した情緒関係が築けなかったことにより、他人と適切な関係を保てない状態。身体・精神的発達は正常にもかかわらず、言葉の遅れやからだの発育の悪さなどがみられることがある。

①抑圧型愛着障害＝誰に対しても関心を持たず、警戒する。

②脱抑圧性愛着障害＝誰に対しても愛着行動を示してしまう。

()

子どもが養育者など愛着をもっている存在と離れることを極端に不安がる障害。養育者と愛着関係が築かれていなかったり、過去に養育者と急に引き離されたりした経験などから発症することもある。この障害だと、保育所など集団の場で養育者と離れることができない。

()

はじめての経験、場所などのシチュエーションで、強い不安を覚え、体調に影響を与えてしまう。電車の中で急に冷や汗やめまいなどに襲われるパニック障害、息苦しさが高まることによって起こる過換気症候群など。

()

強いストレスにより、体に異常が現れる状態。ふるえ、けいれん、視野が狭くなるなどが起こることがある。

()

自分でもつまらないことだとわかっているにもかかわらず、そのことが頭から離れない、わかっているが何度も同じ確認をくりかえしてしまう状態。不安恐怖、確認行為、物の配置、数字のこだわりなどから抜け出せない。

()

- ①拒食症＝強いやせ願望により、食事制限や嘔吐などで摂食行動を避ける。女性に多く、無月経や貧血などが起こる。
- ②過食症＝過食が止められない状況から、一転して嘔吐、下剤の多用などによる食べたものの排出を行う。自己嫌悪や抑うつ状態などが起こる。

()

- ①怒りっぽく癇癢を起こす ②口論や挑発的な行動をとる ③執念深さ が一定期間続き、その年齢の子どもの頻度に比べあまりにも頻繁であることにより診断される。もともと感情をコントロールしづらい気質がある。

()

事故、災害、虐待など、自身が極度の恐怖にさらされた後の精神状態のあと、出来事が心的外傷（トラウマ）となり、嫌な記憶が繰り返し襲ってきたりする（フラッシュバック）。感情が乏しくなったり、逆に小さなことに過度に反応してしまったりする。

()

- 本人の意思とは関係なく、突然体が動いたり、声が出たりすることが続く障害。男児に多い。
- ①運動チック＝まばたきをする、首を動かす、顔をしかめる など
- ②音声チック＝鼻をすする、咳払いをする など
- ③トゥレット障害＝運動チックと音声チックが現れるもの。おうむ返し（エコラリア）、汚言症（汚いことやわいせつなことをいう）を伴うことがある。

()

家庭では普通に会話をするのに、保育所や学校など特定の場所では話せなくなる状態。

()

話し言葉の最初の音を繰り返す、つかえる、音を引きのばすなど、スムーズに話せない状態。話の流暢さを著しく阻害する程度の場合に診断される。
会話の際、まばたきをしたり、首を動かしたりなど、からだの一部が動いてしまうことがある。

()

自分やまつげなどを抜いてしまう。ぬいぐるみの毛なども対象となる。心に葛藤や不安があるときに起こるといわれている。

()

眠っているときにいきなり起き上がり、大きな声を出したり、泣いて騒いだりする。本人は夜中の出来事を覚えていない。幼児期に起こりやすく、成長とともに症状はなくなる。

<選択肢>

抜毛症 転換性障害 レット症候群 チック 吃音
フェニルケトン尿症 分離不安障害 夜驚症 摂食障害
反応性愛着障害（反応性アタッチメント障害） クレチン症
心的外傷後ストレス障害（PTSD） 不安障害
小児期崩壊性障害 選択性緘黙（場面緘黙） ダウン症
反抗挑戦性障害 強迫性障害

<正しく覚える編>

(フェニルケトン尿症)

先天性の代謝障害。メラニン欠乏症状などが特徴。早期発見・治療により、知的障害を予防することが可能。

(クレチン症)

先天性の甲状腺形成不全などの状態。身長発育の遅滞などが特徴。早期発見・治療により、知的障害を予防することが可能。

(ダウン症)

先天性の染色体異常。ほとんどの症例で、21番目の常染色体が正常にくらべ1本多い。特徴的な顔、発育不全、先天性心疾患などがみられる。

(レット症候群)

生後5か月ごろまでは正常発達だが、その後30か月ごろまでに急激に自閉症や知的障害が現れる。手の常同運動が特徴で、女児に多い。

(小児期崩壊性障害)

2歳ごろまでは正常発達だが、発症するとそれまでの機能を失い、自閉症や重度の知的障害が現れる。

(反応性愛着障害 (反応性アタッチメント障害))

乳幼児期に虐待やネグレクトなどで、養育者との間に安定した情緒関係が築けなかったことにより、他人と適切な関係を保てない状態。身体・精神的発達は正常にもかかわらず、言葉の遅れやからだの発育の悪さなどがみられることがある。

- ①抑圧型愛着障害＝誰に対しても関心を持たず、警戒する。
- ②脱抑圧性愛着障害＝誰に対しても愛着行動を示してしまう。

(分離不安障害)

子どもが養育者など愛着をもっている存在と離れることを極端に不安がる障害。養育者と愛着関係が築かれていなかったり、過去に養育者と急に引き離されたりした経験などから発症することもある。この障害だと、保育所など集団の場で養育者と離れることができない。

(不安障害)

はじめての経験、場所などのシチュエーションで、強い不安を覚え、体調に影響を与えてしまう。電車の中で急に冷や汗やめまいなどに襲われるパニック障害、息苦しさが高まることによって起こる過換気症候群など。

(転換性障害)

強いストレスにより、体に異常が現れる状態。ふるえ、けいれん、視野が狭くなるなどが起こることがある。

(強迫性障害)

自分でもつまらないことだとわかっているにもかかわらず、そのことが頭から離れない、わかっているが何度も同じ確認をくりかえしてしまう状態。不安恐怖、確認行為、物の配置、数字のこだわりなどから抜け出せない。

(摂食障害)

- ①拒食症＝強いやせ願望により、食事制限や嘔吐などで摂食行動を避ける。女性に多く、無月経や貧血などが起こる。
- ②過食症＝過食が止められない状況から、一転して嘔吐、下剤の多用などによる食べたものの排出を行う。自己嫌悪や抑うつ状態などが起こる。

(反抗挑戦性障害)

①怒りっぽく癇癢を起こす ②口論や挑発的な行動をとる ③執念深さが一定期間続き、その年齢の子どもの頻度に比べあまりにも頻繁であることにより診断される。もともと感情をコントロールしづらい気質がある。

(心的外傷後ストレス障害 (PTSD))

事故、災害、虐待など、自身が極度の恐怖にさらされた後の精神状態のあと、出来事が心的外傷(トラウマ)となり、嫌な記憶が繰り返し襲ってきたりする(フラッシュバック)。感情が乏しくなったり、逆に小さなことに過度に反応してしまったりする。

(チック)

本人の意思とは関係なく、突然体が動いたり、声が出たりすることが続く障害。男児に多い。

①運動チック=まばたきをする、首を動かす、顔をしかめる など

②音声チック=鼻をすする、咳払いをする など

③トゥレット障害=運動チックと音声チックが現れるもの。おうむ返し(エコラリア)、汚言症(汚いことやわいせつなことをいう)を伴うことがある。

(選択性緘黙 (場面緘黙))

家庭では普通に会話をするのに、保育所や学校など特定の場所では話せなくなる状態。

(吃音)

話し言葉の最初の音を繰り返す、つっかえる、音を引きのばすなど、スムーズに話せない状態。話の流暢さを著しく障害する程度の場合に診断される。

会話の際、まばたきをしたり、首を動かしたりなど、からだの一部が動いてしまうことがある。

(抜毛症)

自分やまつげなどを抜いてしまう。ぬいぐるみの毛なども対象となる。心に葛藤や不安があるときに起こるといわれている。

(夜驚症)

眠っているときにいきなり起き上がり、大きな声を出したり、泣いて騒いだりする。本人は夜中の出来事を覚えていない。幼児期に起こりやすく、成長とともに症状はなくなる。